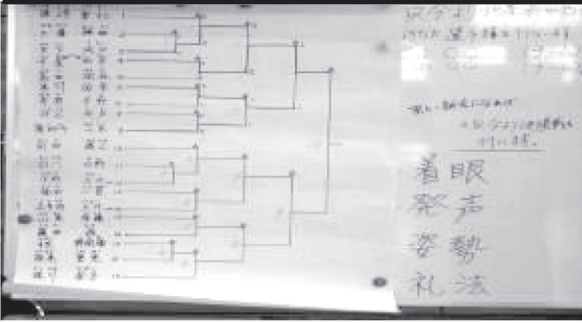


○ 研究内容

【教材の工夫】

判定基準をホワイトボードに表示し、意識させた。



【演技競技の運営の様子】

外部指導者が審判を行い、緊張感ある試合をした。



【防具の装着】

素早く正しく装着させ、安全に活動することができた。



【試合競技の様子】

防具を着用することで、安全に思い切った対戦ができた。



【アンケート調査結果】

1年生女子（76名）を対象にアンケート調査を行った。

なぎなたの授業後、1年生を対象にアンケート調査を行った。なぎなたの授業を行ってよかったことを、4段階で評価させた。ほとんどの生徒が、「よく当てはまる」、「当てはまる」と回答していた。また、授業の感想も書かせた。

「なぎなたの授業でよかったこと」（複数回答可）

- | | |
|------------------------|-----|
| 1 興味をもって取り組めた。 | 97% |
| 2 基本技能が身に付いた。 | 97% |
| 3 外部指導の先生の指導が分かりやすかった。 | 97% |
| 4 防具の取り扱いや名称を学べた | 96% |
| 5 演技試合を楽しむことができた。 | 94% |

「授業の感想」

- ・初めてなぎなたに触れてすごくおもしろかったし、興味を持って楽しめました。
- ・外部から先生が来てくださって、とても楽しく今興味をもてました。
- ・姿勢や着眼など、一つ一つのことがしっかりできるようになりました。

外部指導者を活用したことで、正しいなぎなたの扱い方や、基礎技能が定着した。また、本物の技に触れることで、生徒の意欲・関心が高まり、さらなる技能の向上につながった。

【今後の取組の方向性】

地域性を生かしたなぎなたの指導

二人の外部指導者の御支援により、大変充実した授業を行うことができた。また、生徒の中には、小学校の時から地域で活動している者もあり、手本となって活動したり文化活動発表会でステージ発表をしたりすることができた。このように、なぎなたの盛んな地域性を生かして、さらに学習を活性化させていきたい。

大学生の指導者と連携し、生徒の関心と学習意欲を高め、基本技能の習得を図った実践例

学校名 松山市立高浜中学校（愛媛県）1～3年

全校生徒数 124名（男子64名 女子60名）

種目等 ダンス

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 089（951）0475

学校メールアドレス tkhj-ad@esnet.ed.jp

1 実践研究のねらい

外部指導者との連携により、生徒に意欲をもってダンスに取り組み、ダンスの楽しさを体験させるとともに、基本動作等を確実に身に付けさせるための効果的な指導の在り方を探る。

2 実践研究の概要

(1) 課題について

- ・ ダンスの技能面だけでなく、ダンスの楽しさを丁寧に指導する必要がある。
- ・ 本校の保健体育科教員はダンスの指導経験が浅く、専門の外部指導者と綿密な連携のもと、授業を展開する必要がある。

(2) 期待される成果について

- ・ 外部指導者の協力を得て、3年間を見通した指導計画を立てて授業を実践することで、技能の習得のための効果的な練習ができるようになる。
- ・ 外部指導者との打合せや授業実践により、教員の指導力の向上につながる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 ダンスを専門とする外部指導者の選定

昨年度に引き続き、ダンスの外部指導者として愛媛大学の学生に支援をしていただき、学校の指導体制および生徒の習得状況等を把握していただいた。保健体育科教員とは、授業展開や生徒の実態から配慮すべきことについて打合せを行い、共通理解のもと、役割分担をしながら指導にあたった。

2 指導内容、指導計画の工夫

(1) 3年間を見通した指導計画の作成

- ・ 1～3年生に対して、それぞれの学年に応じた基本動作を習得させることを指導の中心とし、それぞれが身に付けた基本動作を使って、音楽に合わせて踊らせた。確実な基本動作の習得にかなげるだけでなく、音楽に合わせて踊る楽しさを味わわせることも意識して指導した。
- ・ 発達段階や習得状況を考慮して、段階的な指導を心掛けた。

(2) 授業における外部指導者との役割分担

- ・ 技能面の説明や指導は外部指導者が行い、保健体育科教員は生徒の習得状況の把握に努めた。必要に応じて外部指導者に振り返りの学習を依頼したり、個別指導を行ったりした。

(3) ブロック対抗ダンス大会の実施

- ・ 文化祭においてブロック対抗ダンス大会を企画・運営した。学習の発表の場として生徒の目標にさせるとともに、より高い完成度を目指して、ブロック内で協力してダンスを創らせ、技能の習得を図った。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1 手・足の爪の長さの確認を徹底した。

2 授業前の体育館の清掃等の確認を確実に行った。

3 授業前・授業後の心拍数の増減を確認するとともに、健康状態の把握に努めた。

4 安全を確認させながら、使用する器具等を準備したり片付けたりさせた。

5 活動中、グループや個人で踊る際の距離を確認させ、安全に活動できるようにした。

○成果の意義と今後の課題

1 外部指導者の授業参加により、専門的で細やかな指導を受けることができ、技能習得に大変効果があった。

2 文化祭で発表を行わせたことで、保護者や地域の方にも学習の内容を知ってもらえるよい機会となった。

3 発表を重視した授業展開となり、話し合いや試行錯誤を繰り返し、生徒が自主的な活動を進めることができた。

4 外部指導者の指導により、より本格的で専門的な学習を展開することができた。

○ 研究内容

【授業風景】

ダンスの基本動作の指導



【全校ブロック別の授業風景】

発表隊形の確認



【全校ブロック別の授業風景】

学生を中心にミーティング



【ダンス発表】

文化祭でのブロック別ダンス大会



【ダンスについてのアンケート（授業後）】

外部指導者の活用により、ダンスの楽しさを味わうことができた。

| 4 よくできた 3 できた 2 あまりできなかった 1 できなかった | | | | | | | |
|---|----|----|----|------------------------------|----|----|----|
| ①一生懸命授業に取り組むことができたか。(単位：人) | | | | ②元気で笑顔で、けじめのある演技ができたか。(単位：人) | | | |
| 評価 | 1年 | 2年 | 3年 | 評価 | 1年 | 2年 | 3年 |
| 4 | 31 | 20 | 34 | 4 | 23 | 10 | 29 |
| 3 | 9 | 15 | 8 | 3 | 15 | 24 | 12 |
| 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 1 |
| 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |

【実践校としての成果と課題（成果の分析や生徒の感想から）】

外部指導者に授業に入っていたいただいた効果は大変大きいと考える。今後も、ダンスの指導をお願いしたいと考えている。

【授業後の生徒の感想】

- ・ 最初は無理矢理笑顔を作っていたけど、最後には、自然に笑顔が出てきて楽しめていると心から思った。(1年生)
- ・ 自分たちで工夫して覚えた振りなどで、他のブロックとバトルすることの楽しさを感じることができた。(2年生)
- ・ 先生と一緒にダンスを一から考えるなど、あまりできない体験をすることができて本当によかった。他学年とも絆を深めることもできた。目標を持って活動する事の大切さがよく分かった。(3年生)

地域の外部指導者と体育担当教員の
連携の在り方（現代的なリズムのダン
スの指導を通して）

学校名 松山市立道後中学校（愛媛県）1・2年
全校児童生徒数 517名（男子264名 女子253名）
種目等 ダンス（現代的なリズムのダンス）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 089（921）4207
学校メールアドレス dog-jof@esnet.ne.jp

1 実践研究のねらい

担当教員だけでは指導できない指導を、外部指導者と連携して行うことで、生徒の意欲と技能を向上させる指導を行う。

2 実践研究の概要

(1) 課題について

担当教員と外部指導者で連携をし、それぞれの立場で互いにサポートしながらダンスの楽しさを十分に体得させる指導を行う。

(2) 期待される成果（仮説）について

外部指導者の模範や実技指導に触れることで、生徒は意欲をもって取り組み、技能を向上させることができるであろう。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 外部指導者との連携によるダンスの効果的な指導の在り方

外部指導者との打ち合わせ時間を十分に取り、授業前には学習課題の確認、授業後には達成度の確認と次時の課題の設定などの情報交換を細かく行った。

2 ダンスの楽しさを味わうことができる工夫

(1) ウォーミングアップから軽快なリズムのBGMを活用し、動きやすい雰囲気作りの定着を図った。

(2) 創作の段階においては、基本的なステップの組合せを取り入れることで、難しい動きにこだわることなく、誰もが無理なく身体を動かすことができる環境作りに努めた。

3 生徒の意欲や向上心を育てる工夫

(1) 外部指導者や高い技能を有する生徒の示範を通して関心を高めるとともに、体の動きだけでなく、声や表情といった心の動きも意識させた。

(2) 完成した達成感と、共に作り上げていく過程での楽しさを味わわせた。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1 年間指導計画の中で他領域と重ならないように工夫し、体育館で授業を行うことで、より安全で広い場所を確保した。

2 互いの間隔を十分にとることやグループでの活動場所に気を付けることなど、生徒一人一人に安全についての配慮を徹底させた。

○成果の意義と今後の課題

1 専門家ならではの知識・技能や高い技術を示しながらの指導が可能であるので、生徒はダンスの楽しさを味わったり、魅力を感じたりすることができた。

2 外部指導者が指導に入ることにより、生徒一人一人に細かな指導ができ、技能や態度を定着させることができた。また、担当教員も専門的なことを教わることができ、徐々に自らが指導するための知識や指導法を身に付けることができた。

○ 研究内容

【楽しさを味わう工夫】

心も身体も温める準備運動



【集団：基本の動きの練習】

外部指導者と共にステップ練習



【小集団：創作活動】

集団での動きづくりの話し合い



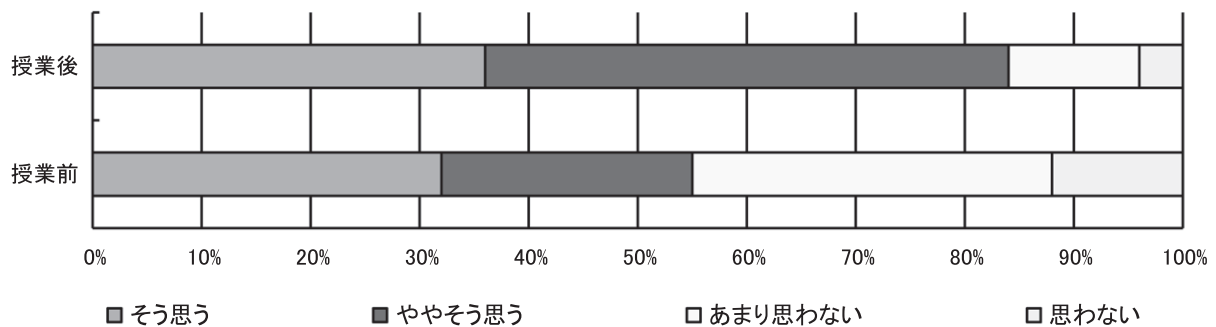
【まとめ、発表会】

クラス内でグループごとの発表



【アンケート結果「ダンスの学習に積極的に取組もうとしている。」】

・授業後には、授業前と比べ、ダンスに対する意欲が高まった。



【今後の学校の方向性】

・多くの生徒がダンスの授業を楽しいと感じ、楽しみにしていたことが外部指導者の導入の成功であった。

「ダンスの技能を高めること」ではなく、ダンスを通して身体を動かすことの楽しさを伝えるという外部指導者の先生の指導方針が浸透し、表情豊かに活動する姿が徐々に見られるようになった。1年生は、初め照れくささや面倒くさいといった印象から、楽しさを感じ取り、来年もぜひやりたいという姿勢が見られた。2年生では、男女で互いに刺激し合い、高め合おうとする態度が見られた。また、進度や達成度について指導者とこまめに打ち合わせを行ったことで、生徒の課題に応じた授業が展開でき、来年度も同様に外部指導者と協力をしてダンスの授業をすれば、より高い内容の授業ができるものと考えられる。

外部指導者の確保、学校での指導に必要な事項の理解において、地域の大学と効果的に連携した事例とその具体的な方法

学校名 松山市立北中学校（愛媛県）1・2年
全校児童生徒数 438名（男子196名 女子242名）
種目等 ダンス（現代的なリズムのダンス）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 089（978）3321
学校のメールアドレス math-jof@esnet.ed.jp

1 実践研究のねらい

- (1) 外部指導者との連携によるダンスの効果的な指導の在り方
- (2) 生徒の意欲や向上心を育てる工夫

2 実践研究の概要

- (1) 外部指導者との連携によるダンスの効果的な指導の在り方
 - ① 外部指導者との打ち合わせ時間を十分に取り、授業毎に情報交換を行う。
 - ② 担当教員と外部指導者が、それぞれの立場で互いにサポートし、ダンスの楽しさを十分に体得させる指導を行う。
- (2) 生徒の意欲や向上心を育てる工夫
 - ① 外部指導者や高い技能を有する生徒の師範を通して関心を高めるとともに、体の動きだけでなく、声や表情といった心の動きも意識させる。
 - ② 完成した達成感と、ともに作り上げていく過程での楽しさを味わわせる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- (1) ダンスの楽しさを味わうことができる工夫
 - ① ウォーミングアップから軽快なリズムのBGMを活用し、動きやすい雰囲気作りの定着を図る。
 - ② 創作の段階においては、基本的なステップの組合せを取り入れることで、難しい動きにこだわることなく、誰もが無理なく身体を動かすことができる環境づくりに努める。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 より安全で十分な活動が行えるよう、体育館での授業を基本とし、他領域との関連を考慮して年間指導計画の見直しを行った。
- 2 生徒の安全に対する意識をより向上させるために、個人活動の際は両手間隔を取らせ、グループ活動の際は学級ごとのポイントを示すなど、常に安全を意識させた活動を行うように指導した。

○成果の意義と今後の課題

- 1 高い専門性と、大学生という生徒と年齢の近い立場での指導で、生徒はダンスの楽しさを味わったり、魅力を感じたりすることができた。
- 2 外部指導者を活用することにより、生徒一人ひとりに細かな指導ができ、技能や態度を定着させることができた。また、担当教員も専門的な技能を見ることで、ダンス指導に対する知見が広がった。